

放送大学大学院文化科学研究科
人間科学プログラム

[人間科学プログラムの人材養成目的]

教育学、心理学、臨床心理学及びそれらの学際領域における高度な自立的な研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、人々の心のあり方の究明とその問題状況の解決に取り組み、子どもの教育、高等教育さらには成人の学習に関わる公共的施策を高度に指導することのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成を目的とします。

[人間科学プログラムが求める学生像]

産業・労働、保健・医療、学校教育、社会教育、教育行政、カウンセリング、心理療法等の領域において研究・企画・運営・管理等の職務に就き、さらに高度な研究能力とそれに基づく指導能力を獲得し、もってそれらの分野において施策を企画立案する力、組織を運営する力、連携する力を指導的に発揮しようという意思を強く持つ人、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することを目指す人。

人間科学プログラムを構成する3領域

人間科学
プログラム

教育学領域

心理学領域

臨床心理学領域

3年間の修学の流れ(例)

学年	時期	事項	
1年次	4月上旬	人間科学特論(前半)受講	人間科学特定研究(研究指導)
	6月上旬	人間科学特論(後半)受講	
	6月頃	プログラム報告会発表	
	2学期	主指導教員による研究法の授業受講	
2年次	1学期	自領域の副指導教員による研究法の授業受講	
	6月頃	プログラム報告会発表	
	2学期	他領域の副指導教員による「研究法」の授業受講	
3年次	6月頃	プログラム報告会発表	
	7月~8月頃	博士論文予備審査	
	1月	博士論文口頭試問・試験	
	3月	博士課程修了・学位取得	

研究指導の実際

放送大学のほとんどの授業は、土曜日や日曜日を開講されます。また、研究指導は対面の場合、千葉の大学本部または都内の学習センターで行われますが、遠隔地の大学院生の場合には、Web会議システムやE-mailを使うこともありますから、仕事をしながら修学できることが大きな特徴です。

これまでの人間科学プログラムの博士論文のタイトル

国立大学法人化が国立大学の機能に与えた影響に関する考察

英国における高等教育質保証制度に関する研究

学士課程の数学的リテラシーを涵養するための数理モデリングによる授業の構成

PTA親会員の不満とその要因構造に関する研究

平成期公立大学の設置政策に関する研究
—政策の窓モデルによる分析—

小学校理科教育における指導方略の研究
—意味ネットワーク・モデルとその発展型を用いた知識構成—

PTSDとバーンアウトの関連からみた救援支援者の心理的負担における意味付けの再考

教育委員会事務局行政職員に関する研究
—教育行政プロパー人事システムと教育行政職員の職務遂行能力—

米国の子ども向け地域スポーツ活動を介した日本人家庭の異文化参入

小学校段階における確率教育の内容と方法の確立
—確率判断と期待値判断の関連性に焦点を当てて—

小学校プログラミング教育における授業の構想及び実践に資する指導指標の開発に関する研究

素行症のサブタイプと併存症に関する心理学的研究：多次元項目反応理論及び構造方程式モデリングによる検討

高専の工学教育におけるPBL教育プログラムの有効性

薬剤師養成教育の変容とその効果—旧4年制課程と6年制課程との比較から—

インナーチャイルドによる心理療法の広がり—認知行動療法を中心として—

心理療法における他者の経験と否定のはたらきを捉える視座

ヘアメイクアップを施した顔の対人魅力、印象に関する研究

人間科学プログラムの教員

人間科学プログラムには、次ページから紹介する教育学領域 5 名、心理学領域 4 名、臨床心理学領域 4 名の教員がいます。

教育学領域の教員と専門分野

岩崎 久美子 教授 (成人教育学・生涯学習論)

苑 復傑 教授 (教育経済学・遠隔高等教育)

橋本 鉦市 教授 (高等教育論)

櫻井 直輝 准教授 (教育政策・教育行財政学)

小林 祐紀 准教授 (カリキュラム・教育実践研究)

心理学領域の教員と専門分野

進藤 聡彦 教授（教育心理学）

向田 久美子 教授（発達心理学・文化心理学）

森 津太子 教授（社会心理学）

高橋 秀明 教授（認知心理学・情報生態学）

臨床心理学領域の教員

橋本 朋広 教授 (臨床心理学)

丸山 広人 教授 (臨床心理学・学校臨床学)

村松 健司 教授 (臨床心理学・福祉心理学)

高梨 利恵子 准教授 (臨床心理学)

プログラムから一言

放送大学の博士課程の大学院生の多くは、仕事をもちながら学んでいます。そして、博士論文のテーマも、仕事と関連したものがほとんどです。これは実践に裏づけられているという点で、大きな強みとなります。

一方で、博士論文提出には、原則的に学会の発行する学術雑誌に最低2編の査読付き論文があることが前提になっていますから、入学したらすぐに準備に取りかかる必要があります。

最後に、放送大学の博士課程に入学し、博士論文を書き終えた後に、このテーマについては、誰よりも詳しいと思えるようになっていただきたいと思っています。